

《履修上の留意事項》 剽窃や改竄などの不正は極めて低劣で唾棄すべき行為であり、いかなる事情があろうとも容認されることはない。そのような不正が発覚した場合、あるいは強く疑われる場合には、以降、その学生からの提出物は評価の対象から除外することとする。

《担当者名》 齊藤 恵一 西郷 達雄

【概要】

心理学の基礎領域における代表的な実験法を体験的に学ぶ。

感覚・知覚、認知、学習、社会心理学の各領域での実験課題が扱われる。

具体的な実施形態についてはガイダンス時に示されるので、以降はその指示にしたがって受講すること。

【学修目標】

実験の計画を立てることができること。

実験データの収集及び処理を適切に行うことができること。

実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができること。

対象を独立変数（環境変数） - （心・身体） - 依存変数の関係で理解すること。

初歩的な科学的レポートのまとめ方を学習すること。

心理学的な研究を行う際の倫理的問題等について理解すること。

基礎領域の感覚・知覚、認知、学習、社会心理学で用いられる実験法の6つの実験を体験し、指定の要件を満たすレポートを作成すること。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	ガイダンス	授業の進め方。 実験レポートについて。 研究参加システム(sona systems)についての案内。	齊藤 恵一
4～6	意味記憶1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
7～9	意味記憶2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
10～12	意味記憶3	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
13～15	囚人のジレンマ1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
16～18	囚人のジレンマ2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
19～21	囚人のジレンマ3	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
22～24	ミュラーリヤー錯視1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	西郷 達雄
25～27	ミュラーリヤー錯視2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	西郷 達雄
28～30	視覚探索1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
31～33	視覚探索2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
34～36	条件づけ1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	西郷 達雄
37～39	条件づけ2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、 レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	西郷 達雄

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
40～42	鏡映描写1	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一
43～45	鏡映描写2	実験の実施、データの分析・結果の呈示とその考察、レポート作成と提出、不備のあるレポートの修正。	齊藤 恵一

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

体験的な学習であるから、毎回出席し、かつ指定された期日までにレポートを提出することが成績評価の最低条件となる。

【教科書】

使用しない。

【参考書】

日本心理学会編 執筆・投稿の手びき（2022年版） <https://psych.or.jp/manual/>
その他、適宜指示する。

【備考】

- ・すべての実験課題を完遂し、レポートを提出すること。
- ・実験によってはグループ分けがなされ、さらに集合時間が異なる場合があるので注意すること。
- ・実験により教室が異なるので気をつけること。
- ・個人情報の管理には十分注意すること。
- ・資料の配付やレポートの受領・返却にはGoogle Classroomを使用する場合がある。
- ・実験の実施やデータの収集・分析にはパソコンやインターネットを利用する。

【学修の準備】

心理学の実験という性質上、事前の予習に重きを置く必要はないが、実験の実施後はそれぞれの実験課題について十分に理解した上でレポート作成に取り組むこと（最低限7日）。

【レポート】

実験テーマごとにレポート課題（ワークシート方式も含む）が課されるため、それらに対して自分の力で真剣に取り組み、期限厳守で提出すること。レポートを書く際には毎回、これまでに習った、レポートを書く際の取り決め、フォーマットについて復習し、それに従ってレポートを書くこと。レポートの書き直しが課された場合には、レポートの書き方について改めて復習し、それに従って書き直して期限までに提出すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。

DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

西郷 達雄(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している